

『 私の青春 』

卓話者：小森 保敏



話は、五十数年前に遡りますが私が『柔道』を始めた経緯をお話し致します。真面目に更生してロータリアンとして活動出来ているのも柔道のおかげでありますので、この柔道についてのお話をさせて戴きます。

小学校5年生の時に父親に岐阜道場という処にある日突然連れて行かれまして『今日から柔道をやれ』と言われ、柔道着と帯を渡されました。

親が怖かったので素直にやり始めました。最初は、面白くなかったのですが体格も大きかったし、真面目にやっているうちに腕も上って来まして、土用稽古等で大会に出るとあれよあれよという間に勝って優勝したりして・・・。

6年生の時に3級になり、中学では、柔道部がなかったのでそのまま岐阜道場に通っておりました。処が中学2年の時に1級を取った頃、少しグレ始めたんですね。

近くに繁華街である柳ヶ瀬があるのですが道場と反対の方へ通い始めるんです！

親父の知り合いに見つかりまして『お前、やる気があるのか？』と親父の詰問され『ああ、ねえわ！』、『だったら辞めろ』『おう、辞めてやら』という事で1級をとった段階で柔道を辞めました。

高校は、岐山高校へ通ったんですがまだ出来て新しい柔道部ですので弱小部だったそうです。たしか1年生の6月頃ですがある先輩が来て『小森は居るか、おお、お前か、柔道部へ入らんか』と言ってきた方が、今の十八楼の社長さんである伊藤さんだったんですね！

ずーっと断り続けていたんですが柔道部の1年生が4人しかいない、1年生の新人大会が5名いる、あと1人いる、俄か部員でも良いから何とか頼むと言われ、私は、人が良いもんですから人が困っているのを黙って見ていられない達なので大会1週間前に俄か部員として入りました。

1年生は、2人が経験者、あと2人が全くの初心者。新人大会では、この3人であれよ、あれよという前に勝って、勝って優勝しちゃったんですね！

それで『小森、正式の部員になってくれ』という事で何度も誘われたんですがそんなつもりはないので断り続けていました。

処が学校帰りに体育館を見ると柔道部員が頑張っている、もともと柔道が嫌で辞めた訳ではない、当時、色気づいてそちらの道に走ってしまっただけ・・・体重は、100キロ超あり、このままぶくぶく太るだけでもみっともないと思い、入ることにしました。

折りしも岐阜国体の年で東京オリンピック候補選手だった松岡先生が私と同じ頃に入られました。先生は、地区でなく、俺が居るうちに岐阜県一にしてみせるといって、それからは、地獄という位厳しい練習の日々が続きました。

先生は、まだ25歳程の現役バリバリですのでコテンパンにやられ、血を吐く様な厳しい毎日でした。当時、関高校がとてつもなく強く、川上監督率いる巨人の様に強く、十連覇程しておりました。トーナメント戦ですと別のチームですと決勝戦まで行けて、2位になる。

卓話

同じチームだと準決勝で負けて常に3位なんですね。岐山高校は、強いけどいつも2位か3位、優勝出来ない。

そうこうしているうちに3年生になり、松岡先生が熊本に帰る事になりました。

『俺がいるうちに岐阜県一にすると約束したのに申し訳ない。熊本に行っても朗報を待っている。お前達が優勝したという連絡を待っているのだから必ず連絡してくれ』という言葉が耳から離れませんでした。

新婚だった先生は、精をつけて頑張れという事でしょうちゅう、私達5人を豚カツだ、ステーキだと言って安給料にもかかわらずもてなしてくれました。

美味しい物につられた訳ではないのですがそんな先生をいつか胴上げしたいと思っておりましたがそれが出来なくて本当に残念でありました。

猛練習にあけくれる中、3年生最後のチャンスである県大会で例年通り、決勝戦で関高と当たった訳です。私はいつも副将か大将だったのですが今回は、『おい、小森、今回は、先手必勝、中堅で行って勝ってこい』と監督から言われまして・・・

勝つにはこれしかないといわれたプレッシャーの中で先方が引き分け、次も引き分け、中堅で私が技ありで勝ち、まずは、関高に優位にたった。副将は、うちでは一番弱い男なのでこれさえ引き分ければと思ったのですが案の定、負けまして対に！

大将戦は、強い者同士なので予定通り、引き分け。5分後の延長戦向けて誰にするか！？と決めようとしたら監督が『オイ！小森、お前行け！』

・・・ただ、相手が誰なのかは100%分ってました。軽量級の強いやつで、体重では勝ってますので負けることはないが勝つのも難しい！？

4分の試合時間が終わり、優劣つけがたい状態ですので審判の判定待ちに・・・

判定と声が上がり、副審二人が揚げた旗は、赤と白・・・この時点でまったくのイーブン。これで主審の揚げた旗の方が勝ち、ということで岐山の旗が揚がり、初めて県で一番になったという経緯で御座います。

涙が出るというより信じられない、やはり、練習は、嘘をつかない、夢は、努力すれば叶えられるのだという事をつくづく痛感致しました。

高校の20周年記念史の中で昭和42年に岐阜県大会で優勝した事が書かれておまして、自分の名前を見た時は、当時を思い出し、感無量で御座いました。

偉いロータリアンの皆さんの前でこんな話が出来たのも青春時代に柔道一筋でやっていたおかげです。

仕事でもゴルフでも何でも良いのですが一つの事を必死にやる、それを達成した時の感動、感極まることを是非見つけ出してやって戴きたいと思います。

貴重なお時間を割いてお聞き戴き本当に有りがとう御座いました。